

VR空間における食体験の構築

中野 萌士

なかの

きざし



《略歴》

1996年 福岡県生まれ

2018年 福岡工業大学 情報システム工学科 卒業

2020年 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士前期課程 修了

2020年 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士後期課程 入学

《受賞歴》

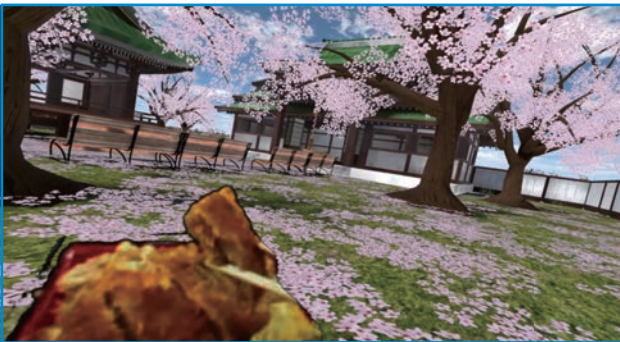
2015年 第5回 サイエンス・インカレ 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞 及び サイエンス・インカレ 審査員奨励賞

《所属》 ※ 2020年5月現在

奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士後期課程1年

テーマ概要 //

空想現実の世界では、普段食べられない食事や現実では存在しない食事も可能である。近年、ヘッドマウントディスプレイ（HMD）によるVR技術によって空想現実の表現が盛んに行われているが、食事は非常に困難である。なぜならば、HMD装着時には現実世界にある実際の食事が見えないことに加えて、空想と現実を違和感なく組み合わせることは難しいからだ。本プロジェクトでは、空想現実世界で実在感を保ちつつ食事を行えるソフトウェア「Ukemochi」を開発し、(1) 現実の食事領域をカメラで検知、(2) 食器型VRオブジェクトの作成、(3) 食器型VRオブジェクトに食事画像を組み合わせという3つの手順を行うことで、空想世界での実在感を保ったままの食事を実現した。



稲見 PM の評価 //

中野萌士氏はアイデアが豊富であり、本プロジェクト採択以前からもVideo-See-Through HMDを用い、そうめんをラーメンの画像に変換して食体験を変化させるシステムを構築している。1)本プロジェクトにおいて基本コンセプトは中野氏が発想し、オンラインで本プロジェクトパートナーの堀田大地氏に声をかけ共同提案に至っている。2)ビデオプロトタイプを援用しつつ、VR世界での食体験のインタラクションを複数のシナリオとして構築・実装している。

3)現在国内で最も人気のあるソーシャルVRのひとつである「VRChat」にプロジェクトの成果を実装し、公開している。なお、システムを紹介した動画は2週間で約6万回再生された。以上のように中野氏は卓越した構想力、実装力、展開力を兼ね備えており、スーパークリエイターとしての基準を十分満たしていると判断する。

近況メッセージ //

・開発成果の近況、展開方針、今後の目的など

未踏期間中に作成したソフトウェア「Ukemochi」は限られたHMDしか動作せず、高スペックなPCが必要である。様々なユーザに使用してもらうため、多種類のHMDに対応させ、Webカメラを組み合わせたソフトウェアに改良中である。また、展示会による広報や新たな食体験を考案し開発中である。コロナ禍の影響でオンライン食事が一般的になってきており、様々な食体験を構築し広めていきたい。

・近況

NAISTの博士後期課程に進学して、より一層大学に引きこもろうかと考えていたところ、コロナ禍によって追い出されてしまった。下宿は狭く、PCや机を設置したらクローゼットが開かなくなってしまったため、引っ越そうか悩んでいる。また、人と会う機会が減り、意外と寂しがり屋な一面に気がついた。寂しさを埋めるためにもオンラインでの食体験を改良し、広めていくモチベーションが向上してきている。

関連 URL //

<https://signs0302.github.io><https://signs0302.github.io/ukemochi/>